


加太地区

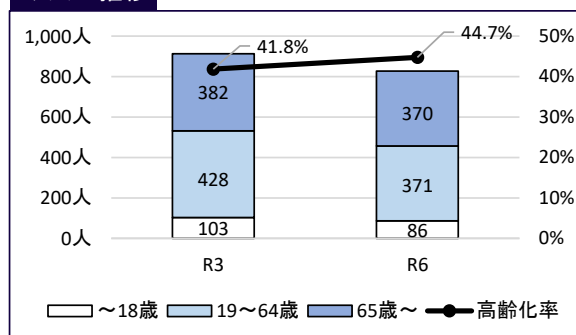
◆概要

	【位置図】	まち協名	加太地区まちづくり協議会		
		所在地	亀山市加太板屋4622-1	電話	0595-98-0008
		地区構成	市場 向井 梶ヶ坂 板屋 神武 北在家 中在家		
		地域特性	<p>亀山市の西端にあり伊賀市に隣接し、7地区で構成されています。小学校、保育所、加太出張所、林業総合センター等があり、地域住民による活動も活発です。また、森林公園「やまびこ」、東海自然歩道、加太の森テラス等自然に恵まれ、川俣神社や鹿伏兎城跡、鉄道遺産群の散策ルート整備もあり、景観と歴史を求めるハイカーが近年増加傾向にあります。交通面は、JR西日本関西本線と大阪・名古屋を結ぶ名阪国道が並走する形で東西にのびています。</p>		
面積	3,757.2ha	ホームページ	https://kabutomachi.jimdofree.com/		
めざす姿	美しい加太、元気な加太、誇りある加太				
地域の誇り	緑豊かな山林資源、美しい山村風景、加太越え奈良道や鹿伏兎城跡などの歴史的遺産がある				

◆人口

	令和3年	令和6年	増減	
総人口	913人	827人	-86人	
人口密度	0.24人/ha	0.22人/ha	-0.02人/ha	
65歳以上	人口	382人	370人	-12人
	比率	41.8%	44.7%	2.9%
18歳以下	人口	103人	86人	-17人
	比率	11.3%	10.4%	-0.9%
外国籍	人口	9人	9人	0人
	比率	1.0%	1.1%	0.1%

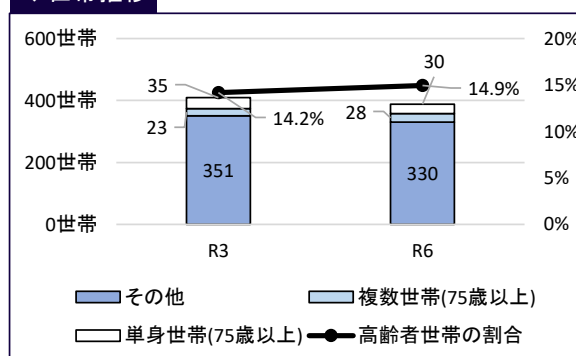
◆人口推移



◆世帯

	令和3年	令和6年	増減
総世帯	409世帯	388世帯	-21世帯
単身世帯 (75歳以上)	35世帯	30世帯	-5世帯
複数世帯 (75歳以上)	23世帯	28世帯	5世帯
高齢者世帯割合	14.2%	14.9%	0.8%

◆世帯推移



◆介護保険認定者

	令和3年	令和6年	増減
要支援1.2	21人	15人	-6人
要介護1～5	75人	65人	-10人
合計	96人	80人	-16人

◆地域組織

	令和3年	令和6年	増減
自治会	7	7	0
老人クラブ	0	0	0
子ども会	1	1	0

◆福祉・医療・教育等に関する社会資源

民生委員・児童委員	5
主任児童委員	1
福祉委員	7
介護保険施設・事業所	0
サービス付き高齢者向け住宅・有料老人ホーム	0
障がい福祉施設・事業所	0
児童福祉施設・事業所	0
病院・一般診療所	0
歯科診療所	0
薬局	0
保育所	1
幼稚園	0
認定こども園	0
放課後児童クラブ	1
放課後子ども教室	1
子育て支援センター	0
学校(小・中・高)	1
乗り合いタクシー停留所	19

◆担当地域包括支援センター

亀山第2地域包括支援センター もくれん

◆サロン活動

	令和3年	令和6年	増減
ふれあい・いきいきサロン	3	2	-1
子育てサロン	0	0	0
コミュニティサロン	0	0	0

◆福祉委員会活動

◆構成員 まち協役員 民生委員・児童委員 福祉委員

◆活動内容

【訪問活動】

75歳以上高齢者宅安心見守り訪問活動を年2回行っています。



加太秋まつり



寄せ植え作り

◆まちづくり協議会の恒例事業

- ・加太地区運動会
- ・加太秋まつり
- ・寄せ植え作り
- ・地域めぐり
- ・高齢者見守り活動
- ・景観維持活動
- ・加太桜まつり
- ・加太駅舎を利用した地域活性化事業

◆生活支援コーディネーターからのコメント

加太地区の人口は827人で、そのうち44.7%にあたる370人は65歳以上です。地域内388世帯のうち、14.9%にあたる58世帯が75歳以上のみで構成されています。また、地域内人口の1.1%にあたる9人が外国籍です。

地域の特色として、昔からの住民や県外等から移住してきた住民は農作業をしている方が多く、近所同士で農作物のおすそ分けが自然な形で行われています。地区内には個人商店があるほか、毎週、移動販売車が巡回しており、高齢者などの生活を支えています。

地域の活動として、秋まつりでは、園児や生徒が住民と一緒に作った農作物の販売や生徒による地域に関する学習発表が行われるなど、地区内の保育園、小学校と交流を深められています。また、移住者の受入も積極的であり、県外等で地区に興味のある方を対象とした古民家体験やものづくり体験が行われています。加太駅舎内にある「加太サロン」は住民の集いの場や定例の音楽ライブに活用されるなど、新たな地域の拠点として定着してきています。今後も地域の子ども達と住民が地域活動を通じて交流を継続していくとともに、住民同士の支え合い活動である「ちょこボラ」の実施に向けた話し合いの機運が高まっていくことが期待されます。